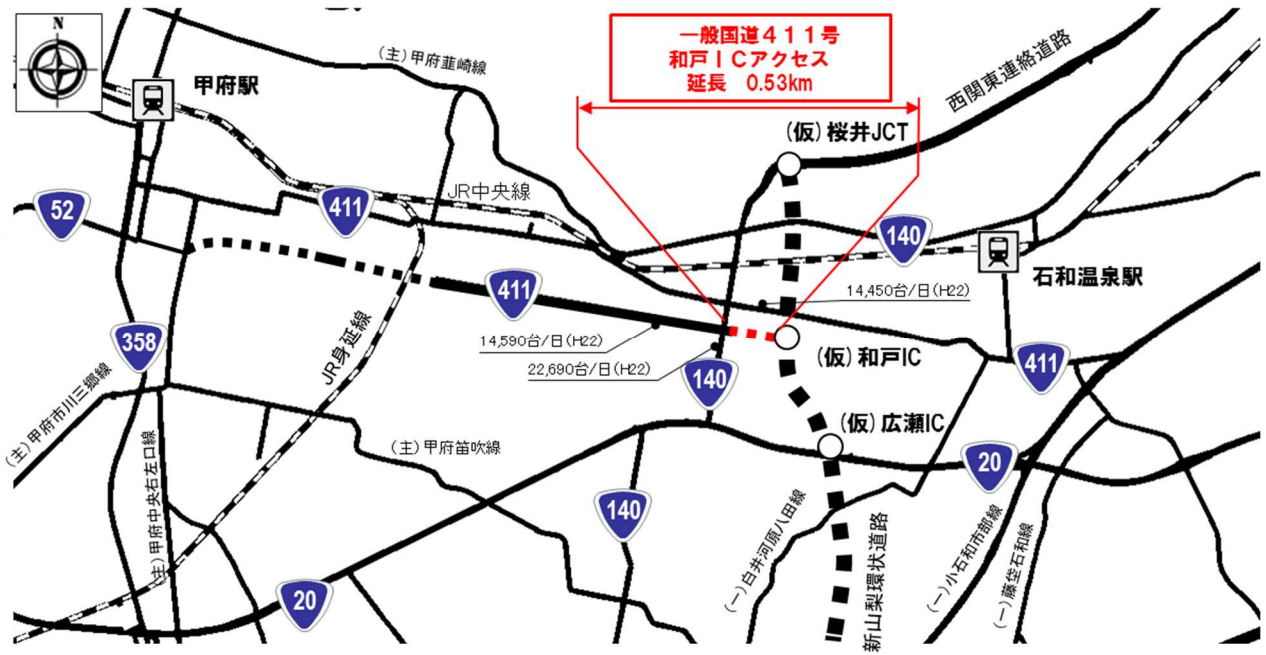


## 再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	地高 IC アクセス 一般国道411号 <small>わど</small> 和戸 IC アクセス	事業区分	一般国道	事業主体	山梨県
起終点	白： <small>やまなし こうふ</small> 山梨県甲府市和戸町 至： <small>やまなし こうふ</small> 山梨県甲府市和戸町	延長	0.53 km		
事業概要					
<p>・一般国道411号和戸 IC アクセスは、新山梨環状道路の（仮）和戸 IC にアクセスする唯一の幹線道路であるため、新山梨環状道路（北部区間）の供用には必要不可欠な道路であり、約0.5 kmを整備するものである。また、現道における交通渋滞緩和についても期待される。</p>					
H26年度事業化		H25年度都市計画決定		H30年度用地補償着手	
R3年度工事着手					
全体事業費	約22億円	事業進捗率	約32%	供用済延長	— km
計画交通量	15,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C <small>(事業全体)</small>	総費用： 10/20億円 事業費：9.7/19億円 維持管理費：0.56/0.56億円	総便益： 49/49億円 走行時間短縮便益：43/43億円 走行経費減少便益：5.3/5.3億円 交通事故減少便益：1.1/1.1億円	基準年： 令和3年	
	<small>(残事業)</small>				
感度分析の結果					
<p><small>(事業全体)</small> 交通量：B/C=2.2~2.7(交通量 ±10%)    <small>(残事業)</small> 交通量：B/C=4.3~5.2(交通量 ±10%)          事業費：B/C=2.3~2.7(事業費 ±10%)                      事業費：B/C=4.3~5.3(事業費 ±10%)          事業期間：B/C=2.2~2.7(事業期間±2年)                      事業期間：B/C=4.3~5.1(事業期間±2年)</p>					
事業の効果等					
<p>①広域ネットワークの形成          ・甲府市、笛吹市、山梨市などの主要拠点間を連絡する広域ネットワークを形成し、拠点間を連携・強化することで、地域活性化に寄与する。</p> <p>②主要渋滞箇所の渋滞緩和          ・現道の国道411号は甲府市と峡東地域（笛吹市・山梨市など）を結ぶ幹線道路であり、朝夕のピーク時には慢性的な交通渋滞が発生する主要渋滞箇所が存在する。          当該事業の整備により、交通量が分散され主要渋滞箇所での交通量が減少し、渋滞緩和が期待される。</p>					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>・都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている。          ・接続する新山梨環状道路北部区間は、沿線の関係市町や各種団体に組織する「新山梨環状道路北部区間建設推進連絡協議会」から早期完成を要望されている。</p>					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
平成28年度に、接続する新山梨環状道路北部区間が事業化された。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約40%、事業進捗率約32%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
地元や関係機関と協力しながら用地買収を推進し、早期供用に努める。					
施設の構造や工法の変更等					
他工事との工程調整による建設発生土の有効利用や、新技術・新工法の積極的な活用により、着実なコスト削減に努める。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由					
事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。